

第4次大分市国際化推進計画 第2回策定委員会概要

| 項目 | 内容 |
|--------------|---|
| 開催日時 | 令和2年10月29日(木) 14:00~ |
| 会場 | 大分市保健所6階 大会議室 |
| 出席者 (委員会) | 下田委員長、疇谷副委員長、井本委員、太神委員、佐野委員、辛委員、ジェンバ委員、馬場委員、原委員、伊藤委員、永松委員、佐藤委員 |
| 次第 | 議事 1 大分市の国際化に関するアンケート調査について 2 第4次計画の基本理念・骨子について 3 今後のスケジュールについて 4 その他 |

【概要】

第2回策定委員会

開会

1. 委員長あいさつ

▽本日も皆さんの忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

議事1

大分市の国際化に関するアンケート調査について

議事2

第4次計画の基本理念・骨子について

議事3

今後のスケジュールについて

議事4

その他について

議事1：大分市の国際化に関するアンケート調査について

■事務局より説明

- ・大分市の国際化に関するアンケート調査の概要について
- ・大分市の国際化に関するアンケート調査結果のポイントについて

■質疑応答

| | |
|-----|---|
| 委員 | 企業アンケートは、もともと大分市内の企業の構成が中小零細が多く、これが「海外展開に興味がない」とする回答に影響していると思う。 |
| 事務局 | アンケートの複数選択可能な設問の数に関しては制限をしなかったことから、少しでも海外展開に消極的な企業については選択をしたかもしれず、結果的にこういう数字になったかとも思う。 |
| 委員 | 中小企業でも、国際展開を考えているところは多い。また、大分市に事務所がある大企業でも、本社の判断に影響されることが多いので、企業の規模だけで判断できるようなものでもない。複数選択可能な中で「興味がない」との選択肢があると、選択しやすいのかもしれない。 |
| 委員 | 企業アンケートの外国人労働者を受け入れる課題として、「特にない・在籍したことがない」が64%となっているということは、外国人労働者の受入れがうまくいっているかどうかは「わからない」ということになると思う。 また、留学生アンケートの「近くに住む日本人との付き合い」について、「ほとんど付き合いがない」との回答が、5年前の回答の4%と比べて、17%とかなり増加している。これがとても心配である。今のコロナ禍の中で、偏見とか差別に繋がってくる危険性があると感じる。 特に市民アンケートの「日本人市民と外国人市民がともに暮らしやすい社会するための取り組み」について、「外国人市民が参画できる機会の提供」に44%が回答されているが、二番目に「差別や偏見をなくすこと」の回答が42%となっており、実はそこが最も大切だと思う。 双方が共通理解を持ったうえで交流しないと、意味がなくなってしまう。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | 今回のアンケート調査では、前回の調査と比べて留学生アンケート調査では学校の偏りなどはなかったのか。 |
| 事務局 | 各大学等に調査依頼をしているが、5年前の調査と比べるとどう偏りが異なるかは把握していない。 |
| 委員 | 留学生アンケートの回収率が低いのはコロナ禍の影響があると考えられるが、大分市在住の留学生だけなのか、大分市以外在住の留学生も含むのか。 |
| 事務局 | 大分県内在住の留学生を対象としている。 |
| 委員 | APUの留学生は、ほかの大学の留学生と比べて、例えば東京などの大分以外の所に就職したいと考える学生が多いと思われる。住むところを参考にアンケートの分析してみると、より明確に結果が出るのではないかと思う。 |
| 委員 | 留学生アンケートの「卒業後の進路」について、大分に留まってもらうためにキーワードとして「大分市の魅力向上」を今後の課題として挙げられているが、そのほかにも「企業側の受け入れ態勢が整っていない」というか、そういったところも課題として挙がってくるのではないかと思う。 |
| 委員 | 企業の経営体制だけではなく、企業自体が国際的な分野にどのくらい注力するのか、国際的な分野にフィールドのない企業にとっては留学生は勤めないのでは、そういったところに助成していくのも重要だ。 |
| 委員 | 留学生アンケートの結果から、前回調査と比べて大分以外の日本で仕事したいとの回答が突出して増加しているとのことだが、大分市としてはどのように分析しているのか。 |
| 事務局 | 前回の留学生アンケートと比べて、今回のアンケートへの回答数も低くなっている。そのような中、大分市内に住む留学生と、市外に住む留学生の意識に開きがあったのではないかと考えている。 |

| | |
|------|--|
| 委員 | <p>留学生の卒業後の進路については、「自分の国で仕事をしたい」との回答が前回調査と比べても増えているとのことだが、大分高専の留学生からの意見でいうと、「日本で得た知識を母国に持って帰って母国の発展につなげたい」「母国で日本の企業と連携して懸け橋になりたい」との学生が、ここ8年くらいは多いので、「自国で仕事をしたい」との回答も増えてはいるが、本音としては「大分とつながりたい」という意志が強いと思う。そういった視点も必要だと思う。また、そういう意志を持つ学生が日本の企業に就職したいと考えているのに、日本の企業が海外に視野を向けていないとなるというのもさみしいところである。</p> |
| 副委員長 | <p>学校の留学生に聞いてみると、感想として多いのが「思っていた日本と違う」というのがある。</p> <p>留学生が、留学生として日本に来ているのか、大分に来ているのかというところの捉え方で、解釈が変わってくると思う。その上で「卒業後に大分にいたいですか」と聞かれると、回答の仕方としては変わってくると思う。</p> <p>「なぜ大分に留学したのですか」という質問があると、分析も変わってくるかと思われる。</p> |
| 委員長 | <p>皆さんの議論を聞く中で、このアンケート自体が大分市以外に住む留学生も含めたアンケートということであり、また、委員の言うように「母国に帰って」という学生は何か研究や技術を身に付けて持って帰り母国に貢献したいというのものもある。この辺のウエイトもわからない中、大分市の国際戦略を考える中で、このデータは、このまま素直には受け取れないとの印象を受ける。</p> <p>市民アンケートは昨年12月、その他のアンケートは今年のコロナ禍の真っただ中だったということで、若干事情も異なる。</p> |

議事 2：第 4 次計画の基本理念・骨子について

■事務局より説明

- ・第 4 次大分市国際課推進計画体系図（案）
- ・第 4 次大分市国際化推進計画体系図（第 3 次計画との比較）
- ・第 4 次大分市国際化推進計画の骨子（案）

推進テーマ：国際交流・国際協力
多文化共生

■質疑応答

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>アンケート調査の結果から、大分市の国際交流が重要だとする市民が 8 割、一方で「国際化」という曖昧な表現ではなく具体的な案件にフォーカスすべきという意見があった。</p> <p>そのような中、推進テーマ 1 を「国際交流・国際協力」としているが、「国際交流」というのは比較的広い意味合いであって、文化交流や経済交流など、また、国際協力を含むものではないかと思う。</p> <p>なので、この「国際交流」と「国際協力」が並んでいるというのは、また曖昧さを生んでしまうのではないかと思う。国際交流の結果として「多文化共生」というのも生まれてくるのではないかと思う。</p> <p>アンケート調査から「国際ビジネス」や「経済交流の促進」という意見が急増していたことから、当然そうした要素をここに入れていくべきではないかと思った。</p> <p>「基本施策」では、事務局案として 3 つ上がっているが、一つ目の「人づくり」、三つ目の「国際協力」は比較的大事な柱なのではないかと思うが、二つ目の「魅力あふれるまちづくり」については、必ずしも国際化を論じるときに必要ではないのではないかと思う。むしろこのところに、「国際ビジネス」や「経済交流」を含めていく柱にして、どちらかという地域産業や街の活性化につながるような国際ビジネスの推進をしていくのだというような趣旨で入れていくのはいかがかと思う。</p> <p>そうすると、この部分の将来像についても「外国人の活力や多様性を取り込む」としているが、多様性については推進テーマ 2 の「多文化共生」の所にあるわけだから、ここでは「海外の成長市場を取り込む」とか、まちの活性化についても「地域の産業」などとするとよい。</p> |
|----|---|

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>そうするとその先には地域の活性化につながって行くという、そういう方向性の方が、留学生の働く先という話もあったが、この部分を含めても全体的に、一つの発展性のあるテーマとなるのではないかと思った。</p> <p>第3次計画でも、施策2で「まちの活性化につながる国際交流の推進」としていて、その下の目標として「海外からの観光客のおもてなし」や「海外ビジネスへのチャレンジ」「国際色をプラスしてまちににぎわいをつくる」などとしており、第4次計画の中でも同じような形で、基本施策の中にぶら下がる形で検討する形でも参考にさせていただきたい。</p> |
| 委員長 | <p>「推進テーマ」については3次計画を引き継ぐ、ということだったが、先ほど委員からも「表現があいまいになる」というご意見もあった。言葉遣いを変えらると、3次計画の考え方と相いれない形になるかと思う。</p> |
| 委員 | <p>「推進テーマ」のタイトルとして入ってこなくても、その下の説明書きの部分で「国際ビジネス」や「経済交流」が出てきていないのでここには入ってくるべきだと思うし、さらにその下の基本施策の3本柱の中には「国際ビジネス」や「経済交流」が一つは入ってくるべきだと思う。</p> |
| 委員 | <p>大分市総合計画の「国際化の推進」の章では、「グローバル人材の育成強化」について課題を共有しているかと思うが、今回の市民アンケートの中で「グローバル人材の育成」が重要との回答が多かったということで基本施策を「国際化に対応した人づくり」としているかと思う。</p> <p>表現として、大分市総合計画の「グローバル人材の育成」との書きぶりとの整合性をとっていないというところの理由はどうか。</p> |
| 事務局 | <p>今後地域において、住民やインバウンドとして入ってくる時に対応する国際化能力を高めるという意味での人づくり、ということ考えたところである。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <p>今の議論のように、上位計画の総合計画から逸脱してくるということになると、政策の整合性をとるのは行政として一番大事なことになるので、第4次計画のどこかの書きぶりでコメントなりが必要になってくると思う。その辺は事務局の方で整理をしておいてください。</p> <p>「グローバル」の定義を最初に拡大解釈というか、最初に広くとらえるようにしておくのではないかなと思う。</p> <p>また、ビジネスの件については、委員の指摘はごもっともなので、基本施策の数を推進テーマごとに3つずつに制約するのであれば、少し表現の工夫が必要ですし、「目標」を少し拡げて記載していく、というやり方もあると思う。</p> |
| 委員 | <p>(事前に提出した基本理念・基本施策案について)</p> <p>内容としては、第3次計画から繋げていくという形で作っているが、特に大分市が、今後人口が減っていくことということもありいかに持続していけるかということから、</p> <p>「～持続可能な豊かな社会を世界とつなぐ～多様文化共生都市Oita」という基本理念を提案した。</p> <p>基本施策に関しては、それぞれの将来像に対して考えたが、特に「ダイバーシティ社会」ということで、「誰もが共に地域を支える」「あらゆる国籍の人がそれぞれの力を最大限に発揮」といったことから、大分に住んでいる市民全体で「多様性」を理解することの大切さを踏まえて提案した。</p> |
| 委員 | <p>推進テーマ「多文化共生」の施策に関しては、人権尊重という意味で「ダイバーシティ」と、地域の一員としてという意味で「インクルージョン」の、二項目に絞ってみてはどうか。</p> <p>また、「外国にルーツを持つ人々が暮らしやすい」についても、外国にルーツを持つ人々が暮らしやすい、という視点も必要だが、その周りの人についても、その現状を理解して尊重できるような気持ちの面も重要なのではないかなと思う。暮らしやすく感じながら地域に住んでいる外国にルーツを持つ人々へのサポートよりも、その周りの人々が暮らしやすくなるように、とのサポートが必要な場合もある。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <p>そういった意味では、グローバルデザインというか、誰かが特別ではなくて、全員が同じことをできるということが可能になるように、そのためにはみんながお互いを尊重するという文化は重要だと思う。</p> <p>そしてそこから、国際的な産業や、国際的な社会で活躍できるというような文化を醸しださないといけない。</p> <p>私の願いとしたら、大分市が国際都市として、言葉だけではなくて世界でもきちんと認めてもらえるような都市を目指す、というのが最終ゴールじゃないかと思っていて、それは大分市の伝統文化のベクトル上にあるので、この流れに乗っていかっていくというのが良いのではないかなと思う</p> <p>その中で、お互いの文化や生活様式が国際的なものになっていき、それがここでいうダイバーシティやインクルージョンにつながっていく。</p> <p>また、そういった中でSDGsの項目がどう達成できているか、というようなことがちりばめられていたらいいと思う。</p> <p>事務局案としては、基本施策の数について、二つの推進テーマそれぞれ三つずつ、合計6本とすることで決めているのか。</p> |
| 事務局 | <p>事務局案として提示しているもので、基本施策の数について特段決めているものではない。</p> <p>入るべき内容が包含されているようであれば、基本施策の数は特に問題ではない。</p> |
| 委員長 | <p>それでは、本日の議論を踏まえて各委員が案を提示するときに、基本施策の数に関してもそれぞれの考え方で検討していただいて、将来像や施策の個別の中身も膨らませて細かく書いていただければと思います。</p> |
| 委員 | <p>事務局案の「国際化に対応した人づくりの推進」の「取組項目」を見ると、やはり「グローバル人材の育成」について言っているのだと思う。</p> <p>事務局案のとおり、「市民全体に国際化に対応した人づくりをしていきたい」ということであれば、次の施策の「まちづくり」の所にその要素を組み込むことができると思う。</p> <p>上位計画との整合性ということであれば、このような考え方もできるのかなと思う。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>委員長</p> | <p>ラグビーワールドカップの盛り上がりも、人が言葉を超え一緒に盛りが上がったことが成功体験となっていて、この体験を今後も続けていくということが国際化につながっていく、こういった人づくりが、まちづくりにつながっていくのではないかと思う</p> <p>また、「現状と課題」として「東京 2020 オリンピック大会を見据えた…」と分析しているが、そうするとオリンピックが大分で開催されるような印象を受けるので、「踏まえた」として考えるようにした方がいい。</p> <p>ラグビーワールドカップ開催のレガシーについても、どう醸成させていくのか、このまま消えさせるのではなくてどう動かしていくのかということも踏まえて計画に落とし込んでいけたらと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>推進テーマ「国際交流・国際協力」については、まずは「グローバル人材の育成」ということで、小中高の子供たちが外国人起業家を訪問するなどして、世界への視野を広げるような施策をということ考えた。</p> <p>二つ目としては、コロナ後を見据えたうえで、プロモーションやオンライン交流は今後ますます必要になってくると思われるので、これらの推進をまずは友好都市をはじめとして進めていってはどうか、というものである。</p> <p>三つめの「国際協力・国際貢献」については、今回のコロナウイルス感染症拡大によりマスク不足になった際に、武漢市などとお互い助け合ったように、何が今困っているのかを具体的に聞くといったきめ細かさが必要かと思い、考えたものである。</p> <p>推進テーマ「多文化共生」については、まずは、多文化共生の推進として毎月 1 回、子供や大人向けとした多文化共生に関するイベントをするということ考えた。</p> <p>二つ目は、それぞれの国の伝統文化や生活習慣を知ることができるような、外国人との交流の場を作ること考えた。大分では特に、外国人が日本での生活習慣を知ることができる機会は多いが、日本人住民に対して外国の習慣を知ってもらうことができる機会が少ないと思う。外国の文化や生活習慣を日本人住民に知ってもらうことは重要だと思う。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>三つめは、快適な環境づくりということで、最も重要なのは外国人に対する「やさしさ」だと思う。</p> <p>初めて大分に来る留学生や外国人は、まず初めに言葉の壁があって、そういったところが解決できるような策があると思う。</p> <p>推進テーマ「国際交流・国際協力」については、ビジネスの部分については国際化推進計画だからこそ入れなければならないのではないかなと思う。</p> <p>事務局案の中で入れるとすれば、「国内外から人々を引き付けるまちづくりの推進」に、まちづくりと兼ねて「ビジネスづくり」といったものを入れるのか、または一項目増やし、別途経済のことを謳うのがいいか、ということを考えている。</p> <p>また、「国際協力・国際貢献の推進」に関しては、SDGsに向けて、「持続可能な国際協力・国際貢献の推進」としたいと思う。</p> <p>推進テーマ：「多文化共生」については、「外国人市民との交流機会の拡大」といっても交流を増やせばいいかというものでもなく、実際に会えないこともたくさんある中で、交流だけでなく、多文化理解や、多文化を学ぶということについてもあると思う。</p> <p>また、「外国にルーツを持つ人も暮らしやすいまち」というよりも、「ダイバーシティの環境の推進」というようにすれば、いろいろな背景を持つ人をクリアしたものになるのではないかなと思う。</p> |
| 委員 | <p>事務局サイドとして、本日の委員の皆様の議論を踏まえて、また、案を練り直してご提示したいと思います。</p> |
| 委員長 | <p>委員の皆さんには、「大分市の夢を描く」といったら言い過ぎかもしれないが、そういう視点をもって、各委員の思いを案として検討していただけたらと思う。</p> |
| 委員 | <p>大分市の商工労働観光部としても、昨年度は中国やサンフランシスコ等に海外販路や国際貿易を拡大していて、その中においてコロナの影響はあった。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>委員</p> | <p>また来年以降についてもこれは推進していくが、国際化推進計画の中に入れていくということであれば、「まちづくり」という観点はどうしても必要になるのかなと思うので、国際ビジネスの件については、推進テーマ「国際交流・国際協力」の中でも分けて、一つの基本施策とした方がいいのではないかと思った。</p> <p>皆さんの議論を踏まえ、国際化推進計画の中ではやはり「グローバル人材の育成」といった視点は重要であると感じた。また、「ビジネス」という視点はどうしても外せないのではないかと感じた。</p> <p>教育委員会としては、学校教育と社会教育の分野を持っている中、学校教育分野については特にALT(外国語指導助手)を配置し子どもたちが外国人と触れ合える機会を作っているが、今年度はコロナウイルスの影響で37人を予定していたところ、17人しか来日できていないという現状であり、ALT一人当たりのコマ数を増やしたり、何とか一人でもALTを増やす努力をしたりすることで、子どもたちが外国人と触れ合える機会を確保しようとしている。また、学習指導要領が改訂されたこともあって、グローバル人材の育成にも力を入れている。</p> <p>社会教育の分野においても、外国人子弟の保護者の方や、必要な方に対しては、「おおいたナイトスクール」というものの中で、特に今年度から「国際科」という授業を開き、大分の生活、文化や日本語を学びたい人向けに学習できる場所を作っている。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>海外からの労働者という点でいえば、その子弟の日本語教育や、現実として日本人の子供たちとの交流、分け隔てなく教育を受けられるか等、そうしたものもこの施策の中に入ってくると思われる。</p> <p>そういった意味では、「ダイバーシティ」や「インクルージョン」といった概念も重要になるし、同時に産業政策の中での位置付けにも関わってくるのではないかと思う。</p> <p>また、姉妹都市との今後のかかわりについても、もう少し建設的なことができないか、という思いはある。</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>コロナウイルスに関しては、来年になれば収束してしまう、ということも言えないような状況にあるので、このコロナ禍においてある程度の動きをしないといけないといった中、そういったことも加味した提案を各委員にはしてもらえればと思う。</p> <p>本日の議論を踏まえて、各委員にはそれぞれの基本理念・基本施策案について、11月6日（金）までに事務局あて提出してください。</p> <p>また、これを踏まえた修正作業については、委員長、副委員長及び事務局において取組み、次回の委員会で諮るということにします。</p> |
|--|---|

議事3

今後のスケジュールについて

■事務局より説明

| | | |
|------|-----|----------------------|
| 令和2年 | 12月 | 第3回策定委員会（計画原案審議） |
| 令和3年 | 1月 | パブリックコメント実施 |
| | 2月 | パブリックコメント結果報告（計画最終案） |
| | 3月 | 第4次計画決定・市長へ報告 |

■質疑応答

| | |
|-----|--|
| | 特になし |
| 委員長 | 委員の皆様におかれましては、本日いろいろとご議論いただきありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。 |

議事4

その他

■全体を通して

| | |
|--|------|
| | 特になし |
|--|------|

閉 会